

寺島和美作 「独り」

- 効果音 (電話のベル)
- 山口雪乃 (フィルター音) ももし、森さんのお宅ですか？ わたし、山口ですけど。あ、ミー！ 元気？
- 森みどり うん。キーちゃんも元気そうね。そう言えば、ずいぶん会ってないね。
- 雪乃 (フィルター音) うん。ミー全然ディスコに来ないし、会いたい。
- みどり わたし、もうディスコには行かないつもりなの。
- 雪乃 (フィルター音) なぜ？ お願い、戻ってきて。なんで教会なんかに行くの？ ディスコに戻ってきてよ。わたし、一人でつままない。お願いだから…。
- みどり もうイヤなの、ああいう世界は。お酒でイヤなことごまかしても、酔いが覚めるとまた同じ現実が待っていて、ちっとも変わってないの。心が空っぽになるだけで。だからもう戻りたくないの。
- 雪乃 (フィルター音) そうしたら、わたし独りぼっちだ。
- みどり でも、できたらキーちゃんにも早く抜け出してほしい。
- 雪乃 (フィルター音) みんな、ミーのことなんて言ってると思う？ “落ちこぼれ” って。学校や家から落ちこぼれただけじゃなくて、わたしたちからも落ちこぼれた、だらしのないやつだって。わたし悔しい。ミーはとつても優しく、踊りだっただれにも負けないのに。お願い、戻ってきて。わたし独りなの。わたしバカだし、踊れないし、バイクにも乗れない。だからだれにも相手にしてもらえないの。お願い。
- みどり ごめん。でもキーちゃんは“幸せだな”って思ったことある？ 今、わたし幸せなんだよ。バイクでスピード出してる時に“幸せ”って感じた時もあったけど、でもとても不安で、寂しくって。あんなんじゃなくって、“もっともっと大きな幸せ”って今感じてるの。人間それぞれの幸せがあると思うの。独りぼっちでも、寂しくても、その幸せ見つけなきゃ。キーちゃんも早く一人でも自分の幸せ見つけて。
- 雪乃 (フィルター音) わたしバカだから、よく分かんないけど、ミーは今 幸せなのか。一人でも寂しくないのか。なら仕方ないね。それじゃ、バイバイ。
- みどり ごめんね、キーちゃん。でも人間、一人一人やりたいことやんなきゃ、生きてる意味がなくなっちゃう。キーちゃんも早くやりたいこと見つけて。
- ナレーション 森みどりは高校 2 年生。進学したものの、希望の高校でなかったため、そのイライラをディスコで踊ることやお酒を飲むことで紛らわせてきたのですが、どうしようもないむなしさを逃れたい一心で、小さいころ通っていた教会に再び行くようになりました。次第に聖書の言葉を理解するにつれ、自分が自己中心の罪びとであること、神のみ子イエス・キリストご自身が、その罪のために十字架の上で身代わりに死んでくださったということを知り、それほどまでに愛されている命、生きることの大切さを知ったのでした。時々かかってくる、昔仲の良かった友人からのディスコへの誘いの電話にも、みどりの気持ちは動きませんでした。ただ、一番仲の良かった山口雪乃の電話には、心を動かされはしたものの、その時の彼女は、“自分はもう違うんだ。あの世界には二度と入っていきまい”という思いに、強く捕らわれていたのでした。またそのころ、新たに教会学校の奉仕も与えられ、日曜日はほとんど教会で過ごすという生活が始まりました。すると、初めは黙っていた父親が、注意をし始めたのです。

緑の父 毎週毎週 教会なんかに行って、日曜を一日つぶして、家族をなんだと思ってるんだ。“酒だ。ディスコだ”と親をさんざん心配させて、今度は教会だと？ 日曜日 一日中家を空けて、親の気持ちを少しは考えろ。

みどり なぜやりたいことをやっちゃいけないの？ 自分の人生で、だれにも迷惑はかけていないわ。今までお父さんの言うとおりにして、お父さんの希望の高校に入って、その結果が生きるのさえ苦痛になった。だから今度は自分の意志で、自分の人生を生きてみたいの。

父親 生意気なことを言うな！ 一人では生きていけないくせに。親の世話になって大きくなったんだろうに。口だけは一人前の口をきいて。

みどり(モノローグ)(エコー) なぜ？ なぜわたしの気持ちを分かってくれないの？ 昔のわたしは生きていても仕方なかった。生きることに意味がなかった。でも、今はわたしを愛して、わたしのために死んでくださった方を知って、生きることの責任や幸せを知ったわ。だれも教えてくれなかつたことを聖書は教えてくれた。それなのに、なぜキーちゃんもお父さんも分かってくれないの？ わたしは自分の生きたいように生きるわ。そうよ、わたしは一人きりだって生きられるわ。寂しくなんかない！

ナレーション こうしてみどりは、その後も教会に通い、日曜日は一日教会で過ごすという生活が続きました。時々、ふっと思い出すことはあっても、いつしか雪乃のことも忘れかけていた、そんなある日――。

効果音 (電話のベル。受話器を取る音)

みどり もしもし、森ですが。

村田洋子 (フィルター音)あ、ミー？ わたし洋子。村田洋子。覚えてる？

みどり え？

洋子 (フィルター音)ほら、ディスコで一緒だった。

みどり ああ、お久しぶり。

洋子 (フィルター音)そうね。まあお互い、いろいろあったんだろうけど。あんた、キーちゃんのこと、もう聞いた？

みどり え、キーちゃんが何か？

洋子 (フィルター音)やっぱり知らされてなかったのね。みんな、あんたのこと裏切り者だと思ってるからね。

みどり それで、キーちゃんがどうかしたんですか？

洋子 (フィルター音)死んだのよ、昨日の夜。湘南でバイクで事故って。運転してた人も死んだって。キーちゃんと付き合ってた男らしい。

みどり (エコー)キーちゃんが?! ウソよ！

近所の人A 無免許の男の子が運転してたバイクに乗ってたんですって。

近所の人B そう言えば夜遊びなんかよくしてたらしいから。やっぱりねえ。

みどり 洋子ちゃん。

洋子 あ、ミー。あんたも来たの？ でも今ごろになって来たって。ほんとにあんたみたいに冷たい人っていないよ。キーはあんたがいなくなつてから、いつも寂しそうにしてたんだ。

みどり 寂しそうに？ キーちゃんが？

男友達 でも同情なんかしてもらわなくなつていいんだぜ。死んだ時、キーは独りじゃなかつたんだ。ちゃんと彼氏がいて、独りじゃなかつたんだ。

雪乃の母 あ、森さん。わざわざありがとう。わたしが、一人っ子の雪乃を甘やかしすぎたのかもしれないわね。でも、わたしがそばにいても、きっと寂しかったのね。高校に入って、なかなかお友達もできないで。だから、あんな子でも、受け入れてくれる、そばにいてくれるだれかが欲しかったのね。

みどり (エコー)わたしがディスコに通っていたら、キーちゃんは幸せだったの？ 死なずに済んだの？ わたしは、わたしはどうしたらいいんだろう？(多重エコー)

音楽 (ブリッジ)

洋子 キーちゃんに会ってきたの？

みどり ええ。でも、キーちゃんじゃないみたい。

洋子 かわいそうに。でも、キーちゃんも、好きな男の子と乗りたかったバイクで死んだんだから、寂しくなかったんだよ。

みどり ウソ。ウソだわ。キーちゃんは自分が死ぬってことも知らないで、「もっと生きていたい！」って叫ぶこともできないで死んじゃったのよ。死んだのは確かにキーちゃんだけじゃなかった。独りじゃなかった。でも、心の中ではやっぱり独りぼっちで死んでったのよ。

洋子 そうかもしれないね。心の中は独りだったのかもしれないね。でも、そしたら人間てみんな独りぼっちじゃないのかな。どんなに親しい人だって、すべて心の奥まで分かってくれる人がいるわけないし。

みどり(モノローグ)(エコー)人間は、みんな独りぼっち？

ナレーション 洋子の、「人間は独りなのだ」という言葉に、みどりはたまらないむなしさを感じ、自分自身のことを考えたのです。

みどり(モノローグ)わたしも、ディスコにいる時はとても寂しかった。ワイワイやっても、そのあと独りになるとたまらなく寂しかった。でも、今は違うわ。部屋に一人でいても、少しも不安じゃない。なぜ？

聖書の声 (エコー)旧約聖書 イザヤ書 41 章 10 節「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。」

みどり(モノローグ) そうだ。わたしのそばにはいつもイエス様がいてくださるんだ。だから寂しい時も、つらい時も、祈って安心していただけるんだ。わたし、最後の電話の時、キーちゃんに「独りぼっちでも寂しくない」って言った。でも違う。ほんとはもう独りじゃなかったんだ。キーちゃんもそのことを知っていれば…。早くわたしが「独りぼっちじゃない」って教えてあげれば…。「イエス様は、あんたのことも愛してるのよ」って教えてあげれば…。ごめんね、キーちゃん！ わたし、これから時間があるうちに、遅くならないうちに、神様の愛、伝え続けるからね。“寂しくって、独りだ”と思ってる人に、「独りじゃないんだよ」って伝え続けるからね。

ナレーション みどりはその時、寂しそうな雪乃の面影の中から、押し出されるように自分を駆り立てる、内なる力を感じていたのです——。

<完>